

令和4年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

1. 議題

- (1) 教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）
- (2) 学校や家庭におけるICTを活用した教育の推進について

2. 日程・出席者等

(敬称略)

地域 日程	地域の教育関係者等	
	氏名	役職
仲善・三観 7月22日 (金) 13:00~14:30	高畑 智	善通寺市PTA連合会会長
	石井 恭子	善通寺市いじめ防止等対策委員会委員
	石井 盟人	観音寺小学校PTA副会長
	田井 秀典	三豊市教育委員会事務事業点検・評価員
	福西 朋美	多度津町PTA連絡協議会副会長
	中野慎一郎	長炭小学校PTA会長
丸亀・坂綾 7月25日 (月) 13:00~14:30	十河 靖典	丸亀市PTA連絡協議会会長
	富家 誠	坂出市PTA連絡協議会会長
	津谷 啓介	宇多津小学校PTA会長
	尾崎 祐介	宇多津北小学校PTA会長
	真鍋 稿二	綾川町PTA連絡協議会 副会長 (綾川町立綾川中学校PTA会長)
高松・東讃・ 小豆 7月26日 (火) 13:00~14:45	松本 学武	高松市子ども会育成連絡協議会会長
	佐々木俊輔	高松市PTA連絡協議会会長
	水次 功治	さぬき市PTA連絡協議会会長
	村上亜紀子	さぬき市PTA連絡協議会母親代表委員会委員長
	大西 弥生	東かがわ市PTA連絡協議会副会長
	山口 洋平	東かがわ市PTA連絡協議会母親代表委員会委員長
	羽座 仁美	土庄小学校・土庄中学校学校運営協議会委員
	九富 崇	土庄町PTA連絡協議会会長
	山本 睦	小豆島中学校PTA会長
	神尾 信宏	三木町PTA協議会会長
	前田 浩作	直島中学校PTA会長
	久保 賢吾	直島中学校校長

3. 意見の概要

教育施策全般（教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）

- 学力の状況については、地方では特に学力の差が大きくなっているように感じる。県教委として力を入れていると感じるが、子どもたちが主体的に学ぶことを楽しいと思えるか、といったことを指標に取り入れていけば、達成されたときに良い方向に進むのではないかと感じる。
- 確かな学力をつけるため、1学級の人数は少ない方がいいと感じており、35人学級が始まって、少しずつ進んでいるが、今後は、33人とか30人とか、更に進めていってほしい。
- 今の教科書は、デザインも鮮やかでイラストも多く、楽しい。また、タブレットを使った動画などもあり、非常にわかりやすい。一方で、学力を向上させるためには、教える側からいろいろと与えすぎになっているのではないかと感じる。
- 外国語教育について、低学年からネイティブの先生に教えてもらっており、子どもの発音を聞くと、保護者としても成果を感じる。一方で、家庭内や地域に出て英語を使う機会が少なく、学校の授業外で英語を使う機会について、教育委員会として考えてほしい。
- 外国語教育について、「幼小中の連携」を意識して取り組んでいる。幼児のころから英語に親しんで英語教育に取り組んでいくことで、英語の学力が身についていくと感じている。
- 一人一台端末の活用については、観察の授業で写真を撮って記録したり、持ち帰って学習に活用したり、非常に良い取組みであると思うので、各市町での取組みが広がっていけばいいのではないかと感じている。
- 特別支援教育の推進について、他の行政との連携をもっと進めて欲しい。教育行政から、大人になって、福祉行政等に繋がっていくときに、必要な情報を福祉行政に適切につなぐことができるようにしてほしい。
- 子どもたちがスマートフォンを利用する時間が長くなっていて、本を読むことから離れていっていると感じる。県教委としても、イベントのようなことをするなど、対策を進めてほしい。
- 心の育成の評価が、他の項目に比べて非常に低いことを心配している。学校教育ならではの部分でもあると思うので、改善するための取組みを進めてほしい。
- いじめや暴力の未然防止の指標については、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」ということよりも、いじめで実際困っている子どもを減らすための指標を取り入れてほしい。また、いじめで困っている子どもが逃げられる場を作ったり、そういう場の質を上げたりできれば、安心して子供を学校に預けられると感じた。
- いじめの問題については、子どもからしっかり状況を聞きとり、全体的な状況を把握した上で保護者に伝えていってほしい。
- 不登校児童生徒への支援について、現在、学校にもスクールカウンセラーが派遣されているが、まだ充実していないということを聞いている。学校現場からは、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを充実してほしいという意見を聞いており、強化してほしい。
- ネット利用に関するルールづくりについては、ルールを作った後に守れたかどうかのチェックが必要であり、守れていない場合のフォローなどにも取り組んでいく必要がある。
- 中高生が外遊びをする場所がない。幼児や小さい子供の遊び場や老人のゲートボール場は整備されているが、中高生がサッカー、バスケット、バレーなど、集まって気軽に遊べる広場がないので、中高生の体力向上のために整備してほしい。
- 部活動の地域移行については、地域に指導できる人材が少ない状況もあることから、地域への移行は難しいと感じている。段階的に移行していくということであるが、早いタイミングで方針等を示してほしい。

- 部活動の地域移行については、誰が部活動を見るのか、また、それをずっと継承していけるのかが大切になってくるので、長く続けられて、子どもたちも安心して部活動に取り組める形を作って欲しい。
- 通学路の安全について、改善された記事を読んだが、引き続き、改善がすぐには難しい場所の対策も進めて行ってほしい。
- 学級閉鎖になった際に、一人一台端末を活用してオンラインで授業する際には、子どもたちの表情や反応までは分からないので、教員も苦労しているのではないかと思う。今後は、不登校児童生徒への活用などについても研究を進めてもらいたい。
- 教員の確保と資質能力の向上について、各学校の研修は、自分の学校で、子どもたちを目の前にした研修を大事にしてほしい。また、教員自身が課題を見つけ、どう改善・解決していくかという内容の研修が広がっていくよう、教育委員会として考えてほしい。
- 働き方改革については、重点的に取り組む必要があり、各教員、又は学校が重点的に取り組む内容を決めるようにしていけば、主体的に取り組んでいけるのではないかと感じる。
- 新型コロナウイルスの影響で、いろいろな学校行事が中止になっており、今後は感染症との共存も見据えた教育を考えていく必要がある。
- 新型コロナウイルスの影響もあり、学校が楽しくないという子供が多いのではないかと考えている。行事等への対応については、各校だけに任せるのではなく、教育委員会で具体的に提案や指示をしてほしい。保護者の立場からすると、早く学校行事を正常化してもらいたいと感じる。
- 「教育委員会の事務の管理及び執行の状況の報告書」については、非常に分量が多く、こういうところからも改革的にICTを活用してみてもどうかと考える。
- 保護者も自身の仕事等がある中で、PTA活動の充て職やイベントで大変な状況である。それでも子どもと学校を繋ぐ部分で何とかしてあげたいが、こうした状況を踏まえて、PTA活動について、どのような方向がよいのか、考えてほしい。

学校や家庭におけるICTを活用した教育の推進について

(ICT教育全般)

- これからの子どもたちはICTに一度は触れてもらいたいと考えている。地元の市がICT専門教員を雇用し、市内の全学校でプログラミング等の授業を開催してくれるのは非常にありがたく感じる。
- 学校で使用しているタブレット端末については、分かりやすくシンプルな機能に限定し、学年・学校種が上がるにつれて機能を段階的に逐次拡充すべきである。今の子どもたちはスマートフォン等に慣れ親しんでおり、タブレット端末はある程度シンプルにしておかないと悪用のおそれもある。
- 子どもの夏休みの宿題を見ると、全て紙ベースである。例えば、動画製作やWeb上の世界旅行、自由研究をデジタル課題にすると、想像力をかき立てるような面白いものが出来上がると思う。
- 子どもたちの机に教科書、ノート、資料集にタブレットが加わっており、授業中に各々が即座に検索する様子も見受けられる。授業では、発表や取組状況を各自で撮影し、振り返りとして活用することで、自分を客観視することも随時取り上げられており、非常に効果的であると感じる。
- デジタル教科書は、子どもたちが楽しく学習できる工夫がなされている。今後の導入方針は議論中とのことだが、授業にさらに取り入れてもらえたらありがたい。
- 児童の机にタブレット端末を置くと、場所を取って狭くなるため困っている学校は多い。学校によっては、机を拡張したり、机に横付けするケースを設置したりするなどの工夫をしていた。ある小学校では、地元の材木屋が縁の付いた大きめの机を製作し、寄附してくれたそうだ。

- 学校の先生方が、ICT機器を利用するあまり、子どもたちの表情を見る機会が減ることが懸念される。先生方がこのことを互いに意識しながら有効に活用してもらいたい。

(ICTの有効活用)

- 子どもたちに同時編集機能を使用させると、みんなが思い思いの行動をとって收拾がつかなくなるが多い。ICTの利点として挙げている機能であっても、先生が苦勞するポイントもたくさんあるということを知っておいてほしい。
- ICTの活用により先生が楽になる方向で進んでほしい。この授業であればこうしたら良い、この授業にはこれを使えばすごく面白いというものがあるオンラインで共有できれば良いと思う。
- 地元の小学校では、朝の出欠確認を児童のタブレット端末で行っており、どの先生でも容易に把握できるようになっている。このスタイルを県下全域で導入したらよいのではないかな。
- ICTを活用すると個々の理解スピード、つまりポイント等に応じて個別に指導しやすくなるが、反面、先生に多くの負担がかかってくる。それに対応する人材を確保してほしい。
- ICTを使いこなせていないベテラン教員の指導力育成のため、学校現場でICT支援員等に指導してもらえ体制を県が整備してくれると非常にありがたい。
- 市町によりタブレット端末が異なっており、先生の異動のたびに操作方法を覚え直す必要がある。いずれ県全体で端末を統一すべきと思う。
- 離島でも1人1台のタブレット端末は整備済みであり、離島という環境下でICTの恩恵が受けられるのか、Wi-Fi環境をどう整備するか等は今後の課題になる。県が県内同一環境を提供することが一番であり、さらに離島の環境を活かした内容を充実してくれると非常にありがたい。
- 学級・学校閉鎖で自宅待機となったり、登校拒否等により学校に通っていない場合でも、家庭でタブレット端末による学習を継続できる。このことは子どもの学ぶ権利として尊重されるべきである。
- 自分の子が通う私立の学校では、先生が自宅からリモート授業を行う体制が構築されている。このような体制を公立小・中学校、県立高校でも充実させてほしい。

(保護者への対応等)

- ICT教育に馴染みのない保護者に対して、ICTを使った授業の事例や様子の分かる動画、パンフレット等を、学校を通じて紹介してもらえると子どもとのコミュニケーションが取りやすくなる。
- 子どもの学校でもタブレット端末が整備されており、休校時に自宅で全教科の授業をZoomで受けることができ、とてもありがたかった。今の子どもたちはICTと共に生活していく時代となっており、家庭でもネットの危険な部分を教えながら使い方を学ばせる必要があると考えている。
- 小・中学校の授業を参観する機会があった。子どもたちは1年生のときからタブレット端末を利用しており、生き生きとしていた。保護者には昔の紙中心の授業というイメージがあるだろうから、授業参観などの機会に今の教育がどのようになっているのかを理解してもらおうことが大切だと感じる。
- オンライン授業を行う学校とそうでない学校があり、保護者としては、ICT教育の面で格差が広がるという心配がある。
- 一部の家庭でWi-Fi環境がないという話があり、PTA会合のZoom開催ができなかった。現在、町の教育委員会と、そういった家庭へのWi-Fiの提供等について交渉中である。
- ICTに関しては保護者側にも、Wi-Fiの設定の仕方が分からない、普段ネットを使わない家庭もあるなどの問題がある。また、保護者の中でもSNS上の仲間外れやいじめなども実際に起きている。PTAとしても、ICT研修会を重点的に開催し、対策を取っていきたいと考えている。